

# 阿武小学校に「茶道クラブ」誕生！

くすのきボランティア「7」が「8」に、そして、「道の駅」へ



地域とともにある開かれた阿武小学校では、保護者を含む地域住民の皆様が「朝学丸付け先生」「草引き」「ウサギの世話」など7種類の学校支援ボランティアに分かれて活動を発展させている。そして、今年度新たに「茶道クラブ」が発足したことにより、学校茶道ボランティアが結成され、茶道免許を持つ地域住民の方がリーダーとなって、茶道裏千家淡交会萩支部の皆さんが子どもたちの支援者となって活動していただけることになった。



4～6年生が参加する茶道クラブは、今年度年間8回の活動を予定していたが、コロナ禍の影響により冬場の2回が中止となり、3月ようやく最終6回目の活動を終えた。

年度当初、それまで物置場となっていた和室を整え、掛け軸、生け花等の環境にまで配慮を重ね、3種類のお辞儀「真」「行」「草」に始まり、茶道具や様々な作法への理解、抹茶の点て方や主菓子・干菓子のいただき方に至るまで、年間を通じて3名の指導者と8名の子どもたちが充実した活動を積み重ねてきた。

11年前の学校統合以来途絶えていた学校茶道の復活は、地域の免許所有者のみならず、地元のお茶屋さんや茶道に心得のある方々の関心と呼び、年度末に学校行事として行った「2022 道の駅プロジェクト in 阿武町」では、茶道裏千家淡交会萩支部を中心に総勢7名もの茶道家の皆さんが子どもたちの支援を買って出てくださいました。

# 2022 道の駅プロジェクト in 阿武町



本校3年生児童が地域学習で学んだことをたくさんの人に見てもらいたいと考え、全国道の駅発祥の地でもある近くの「道の駅 阿武町」での発表を希望した。しかし、それだけではもったいないと、オープニングの寸劇から紙芝居「キウイ物語」、阿武町の魅力を伝える劇「すき！すき！大好き阿武町ニュース」、不特定多数の来場者とふれあう「昔の遊び」「抹茶の振る舞い&肩揉み」等、様々な企画が生み出され、抹茶に関しては、茶道クラブを指導される茶道裏千家淡交会の皆様「茶会」的な支援を要請した。

この活動に「2022 道の駅プロジェクト in 阿武町」という名前をつけ、地元の防災無線や道の駅の館内放送、町内各所へのポスター掲示などで大々的な宣伝活動を行った結果、平日にもかかわらず200人を超える来場者が集い、町長さんをはじめ地域学習でお世話になった60名の招待客や保護者が茶道家による本格的な抹茶105杯を味わった。

一般客も自由に入出入りできたことから、この度、周南市在住のご夫妻からお礼の手紙が届いた。抹茶&肩揉みで癒やされ、阿武町のよさをアピールする子どもたちの姿を見られて好感をもたれたようで、これこそ小学生にできる最大の地域貢献ではないかと感じた。次年度も継続してほしいという声を多くいただいた満足度100%の行事といえる。

本紙面をお借りして、指導者としてご支援いただいた茶道裏千家淡交会の皆様はもちろん、発足当初、当面の茶道具を貸して下さった覚証寺（下関市豊田町）様、茶道具購入に心温まる助成をいただいた山口県教育会の皆様心から感謝申し上げます。